

令和元年度 島根県立情報科学高等学校 学校評価

教育目標：普通教育ならびに情報・ビジネスに関する専門教育を施し、健康で、心豊かな人間性を育成する

①地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成

②社会人としての規範意識や倫理観を身に付けた感性豊かな人間の育成

No. 1

重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	R1年度			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価		
					平均	%	評価				評価	コメント	
魅力ある学校づくり	①専門性の深化	商業	・充実した設備を活かした先進的な授業の実施	・島商研表彰生徒（1級2種目以上）の割合が3年生の10%以上。かつ、情報処理国家資格・日商簿記検定2級取得者が合わせて5名以上。	校内統計	-	50	C	C	情報処理国家試験・日商簿記2級取得者は6名となり目標は達成したが、1級2種目以上は達成できなかった。そのため達成度は50%とした。	カリキュラムの改定を含め、効果的に底上げと上位層を伸ばすため、教員相互の授業改善に向けた取り組みを行い研鑽を積む。また、より効果的な習熟度別展開を構築していく。	C	・目指す学校像の中に、情報教育の「中心校」とあるが、「中心校」では発展性が感じられないので、校長先生の思いの中にもあるように、情報教育の「先進校」へと変更してはどうか。その方が前向きな姿勢を感じることができる。 ・P T A総会出席者が少ないのは学校に大きな問題がない、この表れてはどうか。出席者数は評価項目から外しても良いのではないかと。 ・P T A総会に授業参観を併せて行うのは良い案だと思う。 ・ボランティア活動やI Tフェアは地域とのつながりという点で大事なので、引き続き指導をお願いしたい。 ・「校長だより」のネーミングでは固く、「校長トピックス」とか、もう少し柔らかく、興味をそそるネーミングが良い。中身は素晴らしく、努力されている姿が良く分かり、もったいない。 ・HPにデジタルデータ（新聞記事など）を掲載して、保護者、第三者（外部）に興味を持ってもらえるように。
	②地域との連携・協働	総務	P T A活動の活性化 ・P T A総会出席率の向上 ・P T A会報「アクセス」の発行	・P T A総会出席者数が150名以上	校内統計	-	24	D	C	・P T A総会出席者数を昨年度と比較すると微減（43→37）だが、元々出席者の絶対数が少ないことが大きな課題である。保護者が時間をつくり参加しようと思える内容を検討したい。 ・アクセスは2学期発行分もカラー印刷にし、写真を多めに入れることで読み易くなるよう改善した。 ・依頼のあったボランティア活動に関する情報提供をすることができ、募集に対してはほぼ応募があり、自主的に参加することができた。 ・ITフェアに対する生徒の達成感96%となり、年々大きな達成感を味わえる事業となっている。継続して進化と深化を目指したい。	・次年度は、例えばP T A総会にあわせ授業参観も可能とするなど、出席率の向上に向けて内容を検討する。 ・生徒が保護者へ配付物を渡している割合が77%であることも影響していると考えられる。まずは配付物を生徒が必ず保護者へ渡すよう指導・徹底を図り、保護者の意識向上に努めたい。 ・募集に対して人数が少ない場合には各部活動や学年会にも依頼し、積極的な地域貢献ができるよう努めたい。 ・今後さらに、お客様の満足度向上が自己の満足度に繋がっていることが、全校で共有できる指導を、全教職員で取り組みたい。	C	・P T A総会に授業参観を併せて行うのは良い案だと思う。 ・ボランティア活動やI Tフェアは地域とのつながりという点で大事なので、引き続き指導をお願いしたい。 ・「校長だより」のネーミングでは固く、「校長トピックス」とか、もう少し柔らかく、興味をそそるネーミングが良い。中身は素晴らしく、努力されている姿が良く分かり、もったいない。 ・HPにデジタルデータ（新聞記事など）を掲載して、保護者、第三者（外部）に興味を持ってもらえるように。
		生徒	・安来市が主催する催しやその他諸地域の活動に参加できるよう図る。 ・地域（自治体・企業・住民）との連携授業・事業の実施	・地元での催しや地域活動・ボランティア活動の情報がアナウンスされていると感じている生徒の割合	生徒アンケート 21	2.7	60	C					
商業			・連携事業・授業の実施回数が10回以上。かつ、生徒事後アンケートの肯定的意見が80%以上。	校内統計	-	96	A						
③魅力の共有とP R活動の強化	総務	商業	学校HPによる情報提供の充実 ・HP項目の整理と充実を図る ・こまめな更新に努める 中学生へのP R活動の充実 ・オープンスクール参加率の向上 ・情報I Tフェア参加者の向上	・学校HP閲覧率	保護者アンケート 9	2.2	37	D	B	・学校HPについては、校長だよりや行事予定表を掲載するようにし、更新も頻繁に行うなど充実・改善に努めたものの、保護者のHP閲覧率は昨年(36%)とほぼ同じであった。閲覧を促すアナウンス不足であった。 ・オープンスクール参加人数（113→146）は大幅に増えており、本校に対する関心が高まりつつあると考えられる。 ・来場者目標2,000人を超える2,291人の来場があった。昨年度の1,513名から大幅な増となった。	・HPの内容を保護者へアナウンスし関心を持ってもらえるようなP Rを行う。また、中学生へのP Rに繋がるコンテンツの充実を検討し、今後、閲覧数には中学生や一般の方など保護者以外の数値も含めてカウントしたい。 ・オープンスクールについては参加者がさらに増えるよう、事前のP R活動に努めたい。 ・毎年の積み重ねが来場者増加という形に現れた。今後は来場者の増加と満足度の更なる向上を目指して取り組みたい。	B	
				・オープンスクール参加者数	校内統計	-	-	A					
				・I Tフェア来場者数（目標2,000人）	校内統計	-	115	A					
社会の形成者として必要な資質・能力の育成	①基礎・基本の徹底	教務	生徒	・基礎学力の向上を目指し、「学び直し」体制を構築する。 ・基礎学力向上講座や定期試験前特別講座など、学業不振者への対策を充実させる。 ・家庭学習習慣を身に付けさせる。 ・常に笑顔で気持ちの良い挨拶をするよう意識させる。 ・登下校時に地域の方に積極的に挨拶をするよう指導する。 ・全体での日常的な服装指導の徹底と継続 ・服装等の指導を学期に2回計画的に行い、事後指導の徹底を図る。	・「学び直し」体制構築のために具体的な行動をしていると感じている教員の割合	教員アンケート 23	2.8	64	C	B	・e-learning教材の検討をさらに進め、早期の導入を実現する。同時に、教材を導入するだけでなく、実際にその活用を意識したシラバスの作成等をおこなう。 ・「分かる授業」「考える授業」を通じて、授業に真剣に取り組む生徒の割合がさらに高まるよう努力する。 ・e-learning教材の導入などを、学びのサイクルの確立につなげる。 ・さらに指導項目の細部を徹底し、生徒に周知すると共に、教職員でも基準を共有しながら取り組んでいきたい。 ・生徒によってはまだまだ挨拶ができていない者もあり、より積極的に日常的な挨拶励行を呼びかけていく。	B	・全体的に評価は高い。家庭学習は、家庭での指導が必要だと思う。 ・平均が3.4～3.5とはすごいことなので継続してほしい。 ・事務所の方を招いてのインターンシップ発表会開催はとても良い企画だと思う。 ・インターネットで「PBL方式」を検索すると当校の発表会の記事が出てくる。うれしかった。 ・3年生による課題研究発表会は高校生活の総仕上げとしても良い施策だと思う。学校評価のどこかで取り上げて記載してはどうか。
				・授業に真剣に取り組んでいる生徒の割合	生徒アンケート 2	3.4	94	A					
				・家庭学習に真剣に取り組んでいる生徒の割合	生徒アンケート 3	2.5	52	C					
				・服装・頭髪等の校則をきちんと守っている生徒の割合	生徒アンケート 11	3.5	93	A					
	・基本的な生活習慣（挨拶、身だしなみ、時間厳守等）が確立していると感じている保護者の割合	保護者アンケート 11	3.4	92	A								
	・服装・頭髪の指導や遅刻防止などの基本的な生活態度に関する指導ができた教員の割合	教員アンケート 7	3.2	94	A								
②自己肯定感の獲得	生徒	・J S制度の導入により、上級生としての責任感の醸成と実践力の向上を図る。 ・J S委員と連携し、生徒会活動の充実を図る。	・生徒会やJ S制度を通して、生徒自らが学校行事等を運営できたと感じている生徒の割合	生徒アンケート 22	3.0	73	B	B	・生徒会やJ S制度も生徒が自主的・積極的に活動してくれた場面が多くあった。3年生の進路活動以降、2年生を中心とした活動も行っていたい。	・J S制度においては1、2学期の活動はしっかりできてきたが、3年生の進路活動以降の活動も積極的・継続的に進めるようにしていく。	B		
③系統的・組織的なキャリア教育	キャリア教育	・育成したい資質・能力を明確にした全体計画を策定する	・3年間を見通した、つながりのある全体計画ができたと感じている教員の割合	教員アンケート 21	2.9	78	B	B	・3年間で育成したい資質・能力を明確にした全体計画を作ることはできた。またキャリアパスポートについて、来年度からの実施に向け準備中である。	・キャリアパスポートを含め、育成したい資質・能力が身についたか、計画が有効に実施されているかの検証方法を工夫する。	B		
④主体的・協働的な課題解決学習	商業	・P B L方式インターンシップの実施。	・インターンシップは進路の参考となると感じた生徒の割合。	生徒アンケート 15	3.3	83	A	A	・P B L方式に変更して2回目のインターンシップだったが、準備・事後・発表の質の向上が見られた。	・事業所の協力を得ながら、身に付けさせたい力を柱とし、より進路意識の高まりを目指した事業となるよう工夫したい。	A		

※「平均」欄は、評価（あてはまる＝4 ある程度あてはまる＝3 あまりあてはまらない＝2 あてはまらない＝1）を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A＝80%以上 B＝65～79% C＝50～64% D＝50%未満

重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の元データ	R1年度			評価	自己評価	改善策	学校関係者評価						
					平均	%	評価				評価	コメント					
互いの人権を尊重する学校づくり	①確かな人権感覚の涵養	人権・同和教育推進	生徒の実態に基づいたホームルーム活動の計画と実施及び振り返り ・校外内の各機関との連携・調整	自己を肯定的に捉えている生徒の割合	生徒アンケート 13	2.6	58	C	B	・今年度から質問項目を変更したため、昨年との単純比較は出来ないが、全体的に今の自分に満足できていない生徒は多い。特に2年生については、肯定的な生徒は45%と、極端に低く出ている。 ・人権問題を自らの問題として捉えられている生徒の割合は、昨年度よりも上がっているが、目標80%であるので、評価はBとしている。 ・HR活動の人権学習では、生徒が人権問題を身近な問題として考えられるよう教材を工夫した。また、グループ討議の時間を設け、出た意見を全体でシェアする活動を取り入れることで、他者の意見を尊重しながら、自分の意見も伝えるという展開を持つようにした。内容を吟味したことで、生徒にも理解しやすく、より身近に、必要と感じられるものになったと考えられる。	・自己を肯定的に捉えることが出来ていない生徒が多いことを、全教職員が認識し、日々の授業や学校行事において個々の生徒にスマールステップを設定することで、達成感や自己有用感を持たせる教育活動を推進する。自己肯定感、日常のさまざまなものから影響を受けて作られるものであることを意識し、教育相談や面談の機会を的確に捉えることで、生徒の状態を把握し、生徒に寄り添った指導に努める。 ・教職員自身が、生徒や同僚の教職員の人権を尊重する姿が、学校の雰囲気や生徒の人権意識の向上につながると考え、日々心がけながら教育活動を行っている。さらなる向上をめざして継続していきたい。 ・HR活動については、それぞれの学年の雰囲気もあるもので、生徒が知りたいことや扱って欲しい内容をその都度、把握しながら、生徒中心の活動となるように進めていく。	B	・自分の持てる力を出し切れていない2年生が多いようなので、日常対話により自信を持たせてほしい。 ・自己肯定感を感じられる機会を増やしていけると良いと思う。 ・人権について意識の向上につながるよう継続して取り組んでいただきたい。 ・相談をしたら、誠意を持って相談にのってもらえると感じているが、相談することができずにいる生徒が多いので、相談しやすい環境を作ってあげると良いと思う。 ・アンケートQUの学校生活の満足度について、昨年度との比較や全国との比較など、しっかりと活用してほしい。あまり活用されていないのでは、という印象がある。				
			生活アンケート等を通して、学校生活での悩みなどを相談することができた生徒の割合	生徒アンケート 23	2.6	57	C										
			生活アンケート等を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと感じている教員の割合	教員アンケート 22	3.3	92	A										
②生徒理解に基づく組織的な対応	生徒 保健	・スクールカウンセラーを活用した教育相談の実施。 ・明るい学校推進委員会で個別の生徒に必要な支援を協議し、共通理解のもとで支援。	生活アンケート等を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと感じている教員の割合	生徒アンケート 14	2.9	73	B	B	・生活アンケートについては年度途中からより良い実施方法を検討し、変更を加えながら実施することができ、その結果を基に担任による面談やいじめ防止検討委員会において共有することができた。 ・QU結果のクラス別の傾向を還元し、クラス運営に役立てる事ができた。 ・「相談通信」などにより、昨年度よりもSCを紹介する機会を増やして相談機会の周知を図り、利用率が高かった。 ・学年会や明推会との連携、保健室の利用状況の観察により、相談が必要と思われる生徒を把握してSCに繋げ、本人・保護者や担任に有効なアドバイスが得られた。	・生活アンケートでいじめなどの現状を把握することはとても重要な事であるが、担任の負担が増えすぎないように学年会と連携しながら、面談週間を設定するなどしてより計画的に実施していく。 ・相談体制があり、安心して気軽に相談できることを生徒・保護者に継続的に伝えていきたい。	B	・生活アンケート等を通して、生徒の人間関係などを把握し、組織的に対応することができたと感じている教員の割合	先生は、生徒の生活の悩みについて誠意をもって相談ののってくれると感じている生徒の割合	保護者アンケート 4	3.1	82	A
			情報科学高校は、生徒や保護者から、様々な相談ができるよう配慮していると感じている保護者の割合	教員アンケート 15	3.4	97	A										
			生徒や保護者の悩みや相談ごとに、誠意をもって対応できた教員の割合	生徒アンケート 12	3.3	90	A										
③人格形成の場としての部活動の推進	生徒	・部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実を図る。 ・1学年学年会と連携を密にし、加入者が90%を増えるよう努力する。	部活動やその他の学校行事に熱心に取り組むことができた生徒の割合	生徒アンケート 12	3.3	90	A	A	・入部率(1月現在)は81%と例年と比較して低い。1年生の入部率が75%と特に低く、新年度当初の新入生に対する働きかけの改善が必要ではないか。 ・1学年学年会と連携を密にし、部活動紹介や体験入部期間など加入促進の働きかけをより積極的に実施していく。	B							
進路実現に向けた支援	①進路適性の把握と勤労観・職業観の育成	進路	各学年に適した進路計画に沿って、企業・学校見学、企業説明会、インターンシップ、講演会を実施する。	進路に関する学習や行事が有意義であると感じている生徒の割合	生徒アンケート 16	3.3	88	A	A	・進路行事は計画的に行い、生徒自身も自分の進路に結びつけて考えることができたが、本校の実績や傾向に基づく行事によるものが多く、4年制大学の行事が少なかった。 ・希望者に対して、大学説明会を行うなどの取り組みをし、4年制大学への興味・関心が高まるようにする。	A	・生徒・先生とともに同じくらいの数値となっていて、あまり不満はないのではないかなと思う。満足度を上げるための行動をお願いしたい。					
			②希望や適性に応じた進路実現	進路	生徒・保護者・企業・ハローワークと連携を取り、的確な情報を得る。面接・小論文・作文指導の全校体制を強化する。	進路先が決定している生徒の割合	校内統計	-	94	A	A	・生徒・保護者の希望を最優先にする一方、企業の求める人材や生徒の適性に考慮して、教職員が一体となってきめ細かく受験指導をすることができた。日程の関係で応募前職場見学を数社しかできなかった生徒や管理職面接を受けられなかった生徒もいた。 ・夏季補習は時期と内容を再考し、応募前職場見学で、なるべく多くの職場を見学できるようにする。また、管理職面接も手順と方法を再考し受験までに生徒が十分に面接の形が整うよう工夫する。	A	・全体的に評価が高いので、引き続き指導をお願いしたい。			
			③進路情報の提供と活用	進路	利用しやすいよう資料を整理し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に的確に提供する。	適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合	保護者アンケート 6	3.3	90	A	A	・生徒は進路指導室の資料を積極的に活用していた。保護者にも積極的に集会等の参加を促し、その結果出席率もよく、タイムリーに情報を発信できた。 ・学期に1回進路便りを発行するなどして、進路行事の様子や企業訪問で得た情報を適宜発信する。	A	・1学年学年会と連携を密にし、部活動紹介や体験入部期間など加入促進の働きかけをより積極的に実施していく。			
信頼される学校づくり	①安全意識の高揚	生徒	街頭指導(春・秋の交通安全運動週間) ・自転車点検(年1回) ・鍵かけ運動の実施(施錠率100%を目指す) ・安全に関わる情報の周知徹底 ・安来警察署との連絡・協力	自転車のマナーを守り、事故防止に努めている生徒の割合	生徒アンケート 10	3.7	98	A	A	・自転車マナーについては、外部より注意喚起の連絡があり、その都度街頭指導を行い、生徒に注意を呼びかけた。春秋の交通安全週間には街頭指導を実施し、交通事故は自損事故を含め2件と昨年度の3分の1であった。 ・警察と連携し、生徒や地域の情報共有を図ることができた。	・今年度、外部から寄せられた注意喚起情報を来年度に反映することで、より重点的な交通街頭指導を展開していく。 ・自転車置き場での施錠確認は生活指導委員会を中心に実施したが、後期生徒会以降、確認の回数が減ったので、年間を通して計画し、継続的な活動を実施していく。	A	・自転車のマナーは事故防止はもちろん、地域の人たちの高校に対するイメージにもつながるので、指導を継続してほしい。 ・環境美化の観点から、また生徒指導上もパンクした車を運動場に長期間放置されているのはいかがなものか。特に外部から多くの方が来訪される際にみつともない。 ・1人の参観もなかった原因は何なのでしょう。原因究明が大切だと思う。 ・普通科との違い、松江商業との違いや特色を中学校に理解してもらい、向上してほしい。 ・課題研究発表会を中学校に案内してはどうか。 ・高校側に非はないので授業参観の項目は削除しても良いのではないかな。学校の良さは分かっているのだから向かないのでは。 ・学校の特徴や楽しさが伝わる動画や写真を、生徒が作ったものも載せてはどうか。中学生には伝わりやすいかもしれない。				
			交通安全や社会のルールを理解させ、公共心を育てる指導ができた教員の割合	教員アンケート 8	3.1	92	A										
			②学習内容と指導の充実	教務	・教科指導力の向上のために、授業公開を積極的に行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を展開する ・新学習指導要領の施行に向けて、情報科学高校にふさわしい教育課程の研究に努める	公開授業、授業参観を合わせて5回以上行った教員の割合	校内統計	-	82	A	A	・数字は2月末日現在の達成率である。毎年この日が年度末の駆け込み実施になる傾向が強い。 ・「主体的…」を意識した授業の割合は年々高まっていると感じる。 ・教科主任会ではR4年度からの新教育課程のみならず、R3年度入学生教育課程についても、改善を検討している。	B	・実施の形式を見直す時期がきている。〇月は□□先生というような年間計画をきちんと立てる等の対策を検討する。 ・授業公開等も合わせ、「主体的…」への意識をさらに高める。 ・R3年度・R4年度と、より情報科学高校にふさわしい教育課程になるよう引き続き検討を進め、研究する。			
③小中学校との連携	教務 商業	・中学校の先生を対象に、授業を公開する。 ・中学校で開催される上級学校説明会等に積極的に参加する。 小中学校との連携 ・学校開放講座の毎月実施 ・小中学校教員対象研修の実施 ・出前授業の実施	何人(何校)の授業参観があったか。	校内統計	-	-	D	B	・中学生の進路決定に影響を持つ中学校の先生に、本校の教育内容を深く理解してもらうことは大切であるので、一層PRに努める。 ・動画や写真で、生徒の表情や声が更に伝わるようなものにしていく。 ・HPに県外からの入学生やその保護者の声を掲載する。女子の受入が可能な宿泊施設について検討を重ねる。 ・連携内容の特性上、ほぼ商業科との連携である。次年度以降コンソーシアムの構築により、学校全体でかかわる組織作りを推し進めていく。								
中学生や保護者に関心を持ってもらえるようなプレゼン、学校案内を作成できたと感じている教員の割合	教員アンケート 25	3.1	89	A													
県外での積極的なPR活動ができたと感じている教員の割合	教員アンケート 26	2.9	74	B													
連携ができたと感じている教職員の割合	教員アンケート 18	2.7	67	B													

※「平均」欄は、評価(あてはまる=4 ある程度あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1)を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の%: A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満